

論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 1241 号	氏 名	上條 知子
論文審査担当者	主 査 鷺塚 伸介 副 査 浅村 英樹 ・ 古庄 知己 北里大学 堤 明純（外部審査委員）		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>一般的に救助活動を行うレスキューワーカーは非常事態によるストレスにさらされるため、心的外傷後ストレス障害（Post-Traumatic Stress Disorder :PTSD）は救援業務従事者にとって課題の一つである。今回、御嶽山噴火災害の救援、災害支援業務に従事した警察職員を対象に、PTSD の発症頻度、重症度を明らかとすること、また PTSD の重症度と本災害支援業務従事前後の状況との関連を調べることを目的とし調査を実施した。</p> <p>その結果以下の知見を得た。</p> <p>(1) PTSD 測定尺度（PDS）を用いて測定された御嶽山噴火災害業務による PTSD の重症度</p> <ul style="list-style-type: none">・ PTSD の診断基準を満たす人はおらず、中程度以上の症状を持った人もいなかった。 <p>(2) PTSD 症状の重症度（PDS スコア ≥ 1 : 軽度以上の症状）に関連する因子</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「女性」の派遣者でリスクが高かった。・ 災害対策業務への「累積従事日数の長さ」が 7 日未満に比して 7 日以上の場合にリスクが高かった。・ 災害対策業務で「被害者家族支援の従事」をしているとリスクが高かった。・ 災害対策業務の帰還後に「飲酒と喫煙によるストレス解消」を選択した場合にリスクが高かった。 <p>以上のように、御嶽山噴火災害支援従事者における軽度以上の PTSD 症状に関連するいくつかの因子を確認できた。この結果から、災害派遣においては、業務管理や事前の教育、事後のケアの計画などの組織対応が PTSD 予防や早期発見に役立つ可能性が示唆された。</p> <p>以上の結果から、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			